

飼い主のみなさまへ

公益社団法人 東京都獣医師会
危機管理室 感染症対策セクション

Q1. 新型コロナウイルスはペット（犬や猫）にうつりますか？

A. ペットへの感染に関する報道が続き、飼い主のみなさまにとってはご心配な毎日だと思います。

- OIE（国際獣疫事務局）によると、香港当局は新型コロナウイルスに感染した方が飼育している犬から、このウイルスの弱い陽性反応が見られたと報告しました。この犬の弱陽性反応は、その後、陰性となったようです。この犬はその間、何も症状を出していませんでした。

最初の血液検査では、感染を示すコロナウイルスに対する抗体価の上昇は認められませんでした。その後陽性が確認されたので、その犬への感染は起きたようです。3月18日には、別の陽性患者が飼っている犬も陽性となったことが報告されています。この犬も症状を示さず、その後、陰性となりました。

- 猫では、3月27日にベルギーで感染が確認されたと、ベルギー当局が発表しています。報道によると、この猫は下痢、嘔吐、呼吸困難などの症状を示した後、回復したとされていましたが、判断をするための十分な情報がなく、本当に感染したかどうかも含めて不明です。

その後、3月31日には、香港当局が猫への感染を報告しています。この猫は症状を示していないとされています。

4月22日には、ニューヨーク州でそれぞれ別の飼い主に飼育されている猫、2頭で陽性が確認されました。この猫たちは、軽い呼吸器症状を示し、現在は回復していると報告されています。1頭は飼い主が陽性患者です。もう1頭は感染源がはっきりしていませんが、CDC（アメリカ疾病予防管理センター）および国立獣医学研究所はヒトの陽性患者から感染したと推測しています。

- いずれの報告も、新型コロナウイルスが犬および猫にうつる可能性を示しています。

香港当局およびベルギー当局は、新型コロナウイルス感染症は、ヒトからヒトにうつる病気であり、ヒトから犬および猫への感染は一般的ではないことを強調しています。

<https://www.info.gov.hk/gia/general/202003/26/P2020032600756.htm>

<https://promedmail.org/promed-post/?id=20200327.7151215>

- 4月5日には、ニューヨークのブロンクス動物園でトラ1頭が新型コロナウイルスに感染したことが報告されました。さらに4月22日、先のトラ1頭に続いて、臨床症状を示していたトラ4頭、ライオン3頭においても、糞便中に新型コロナウイルスが確認されました。

- 感染実験や、武漢市での猫の抗体価検査の結果などが中国の大学から報告されていますが、今の段階では、世界の多くの研究機関は十分な根拠がない（不確かな情報）と考えています。今後の推移を注意深く見守る必要があるでしょう。

- 現時点では、本会を含め世界の多くの専門家は、伴侶動物を日常的に検査する必要はないと考えています。

繰り返しになりますが、次々に新しい情報が発信されている現時点でも、新型コロナウイルス感染症はヒトからヒトへ感染する病気であり、ヒトからペットに感染した（ペットからウイルスが検出された）としても、さらにペットがヒトに病気を移す可能性は限りなく低いだろうと、世界中の多くの専門家も含めて考えています。

今後も人との接点があるペットやその他動物に関する様々な報告が行われることが予想されますが、冷静に情報を取捨選択し、落ち着いて対応くださいますようお願いいたします。

本会としては引き続き、飼い主の方が新型コロナウイルスに感染しないことがペットを守るためにも大事であると考えております。

Q2.犬の散歩や運動ではどんなことに気をつければいいですか？

外出の自粛が求められている中ですが、犬の散歩や短時間の運動については続けていただいてもかまわないでしょう。ただし、人や犬が多数集まる公園などに連れていくのは避けるべきです。散歩や運動は必ずリード（引綱）でつないで行ってください。人込みを避けたルートを選び、飼い主同士の立ち話は避け、通行人や他の動物とは 1.8メートル程度の距離を保つようにしましょう。ドッグランの利用は人や犬が集まる場所になりますので、できるだけ控えてください。帰宅時には手洗い等の感染対策を忘れないように励行してください。

Q3. 犬や猫にも「新型コロナウイルス感染症」があると聞いたことがあります、それは人にうつりますか？

A. 犬や猫にも固有の新型コロナウイルス感染症があります。

しかし新型コロナウイルスは「種特異性」*が高いため、これまで犬猫で報告されている「新型コロナウイルス感染症」が、ヒトを含めた他の種の動物に感染したという報告はありません。

犬の場合は軽い下痢症状、猫の場合は伝染性腹膜炎を起こしますが、どちらもまれな病気です。

犬の新型コロナウイルス感染症が猫にうつったり、あるいは猫の新型コロナウイルス感染症が犬にうつったりするのは一般的ではありません。

※「種特異性」とは

形態あるいは機能のうえで、ある種は共通にもっているが、他の種には認められない特色。

Q4. 私は新型コロナウイルスに感染しました。ペット（犬猫）とどう接すればいいですか？

A. あなたが入院される場合は、ご家族など、他にペットの世話をしてくださる方がいらっしゃるようでしたら、その方にお世話をお願いしてください。

※ 2020.04.06「新型コロナウイルスに感染した人がかっているペットを預かるために知っておきたいこと (Ver.2)」参照

- 自宅で療養される場合にはペットの体表にウイルスが付着しないようにするために、療養中の部屋にペットを出入りさせないようにしてください。
また、汚染したマスクやリネン類にペットが接触しないように注意してください。
- ご自宅で世話することができないようでしたら、信頼できる方になるべく早くお預けする方が良いと考えます。
- ご家族が自宅でお世話する場合も、どなたかに預ける場合も、ペットの体表などを介して感染伝播させないため、ペットはシャンプーすることが望ましいと考えます。
- シャンプーをする場合は、お湯が出る勢いを弱くして、毛に当たったお湯がご自身を含む周りに飛び散らないよう工夫するといいでしょう。
ていねいにお湯で流したあと、シャンプーをしてください。
シャンプー後、ペットを拭いたタオルは一般的な家庭用洗剤で洗濯してください。
- 世話する方にペットをお渡しする際には、キャリーバッグや首輪、リードなどは、0.05%に薄めた次亜塩素酸ナトリウム液で拭いた後、塩素を拭き取るためにもう一度水拭きしてください。
- 洗濯や消毒などの注意は以下をご参考下さい。
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601721.pdf>
- ペットとの別れが辛いからといっても我慢して、抱きしめたりしないよう注意してくださいね。
- 他にお世話をしてくださる方がいらっしゃらず、ご自身が無症状・軽症である場合には、ご自身でお世話して頂きたいですが、ご自身から他の方に感染拡大しないように、またペットの体表などに付着したウイルスが、他の方の感染源とならないよう注意が必要です。

**Q5. 飼っているペットが新型コロナウイルスに感染したのではないかと心配です。
どうすればいいですか？**

- A. ご自身が感染者でない限り、ペットへの感染を心配する必要性は少ないと考えられます。もし、ペットへの感染が心配であるなら、人混みに連れて行かないようにし、できるだけ感染のリスクを減らすよう注意して生活します。

新型コロナウイルスに感染していた人とペットが濃厚に接触したことが分かっていて、その後ペットの体調が悪くなった、という場合には、かかりつけの動物病院に電話をしてください。ペットを動物病院に連れていく前には必ず事前に連絡を入れてください。

参考文献：OIE Questions and Answers on the 2019 Coronavirus Disease (COVID-19)
<https://www.oie.int/en/scientific-expertise/specific-information-and-recommendations/questions-and-answers-on-2019novel-coronavirus/>

この記事は2020年4月24日時点の情報に基づいて作成しています。今後、新しく得られた情報により、内容が更新されることがありますので、あらかじめご了承ください。また、個別具体的な事象への判断を行うものではありません。

2020.04.24 公益社団法人東京都獣医師会 危機管理室感染症セクション